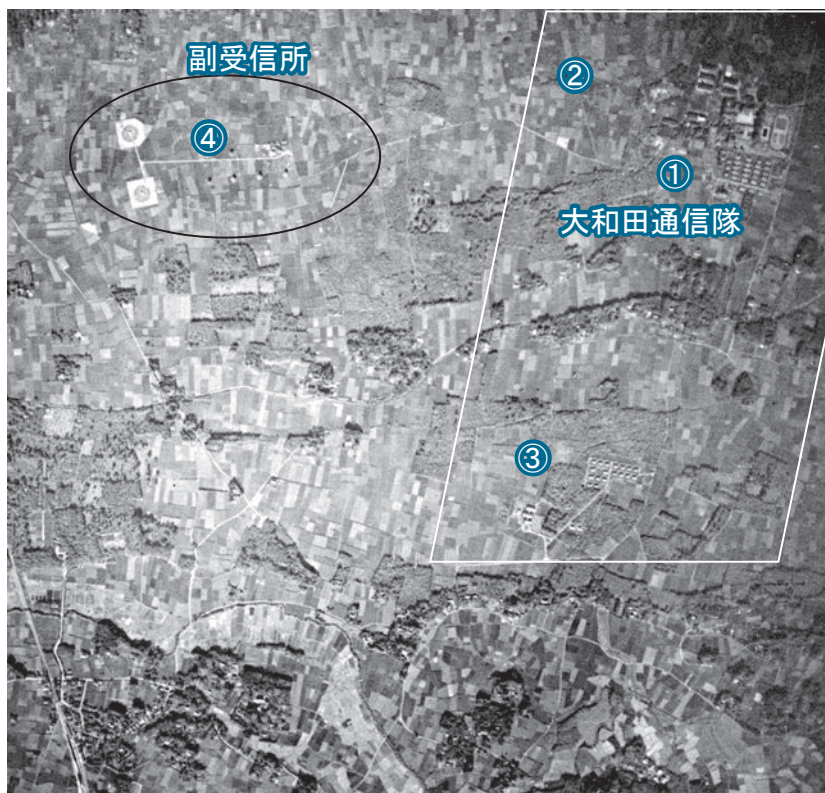


東久留米の戦争遺跡（2）

本年は戦後70年にあたり、各地でさまざまな行事が開催され、戦争の惨禍を後世に伝える戦争遺跡についてもいろいろな視点から注目を集めました。「戦争遺跡保存全国ネットワーク」によれば、国や自治体が文化財として指定又は登録した遺跡は230件を超えました。東久留米市においても昨年9月に、「武蔵野鉄道引き込み線跡」と「北多摩陸軍通信所跡」が市の旧跡に指定されました。今号では市内に存在したもう一つの軍事通信施設の紹介と空襲の痕跡について取り上げました。

海軍大和田通信隊

海軍の「大和田通信隊」は、当時の埼玉県北足立郡大和田町西堀を中心に、東京都北多摩郡清瀬村下清戸、同久留米村上野原におよぶ本隊と、清瀬村中清戸に副受信所を有する3町村にまたがる広大な範囲の受信所でした。ここでは主に外国無線の傍受を専門に行っており、終戦時には海軍でも最大規模の受信所の一つでした。現在は、埼玉県新座市に在日米軍の通信施設としてその一部が残っています。



日本海軍の無線電信は霞が関の海軍省にある「東京無線電信所」を中心に行われてきました。ただし、無線は同時交信の必要性から送信所と受信所を分離設置する必要があり、「東京無線電信所」は中央管制と受信を行い、送信は「船橋送信所」から行われました。その後無線設備の性能向上もあり、昭和9年（1934）に無線傍受を専

大和田通信隊

- ① 埼玉県大和田町西堀・現新座市
- ② 東京都清瀬村下清戸・現清瀬市
- ③ 東京都久留米村・現東久留米市

大和田通信隊副受信所

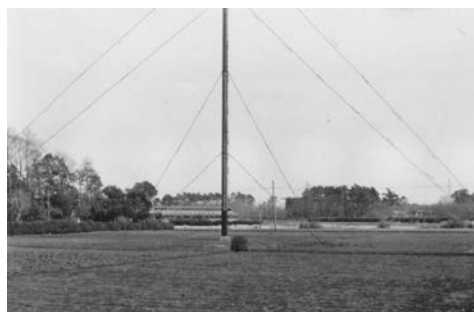
- ④ 東京都清瀬村中清戸・現清瀬市

門に実施するため「東京無線電信所」の附属機関として「大和田受信所」の設置が決定され、昭和12年(1937)から本格的な稼働を開始しました。また、同年6月に海軍通信隊令が施行され、それまでの海軍無線電信所が海軍通信隊と改称されて、「大和田受信所」は「東京通信隊大和田分遣隊受信所」となりました。その後、受信能力を増強し、昭和16年(1941)の太平洋戦争開戦時には、「東京通信隊」から独立して「大和田通信隊」となり、本隊では海軍で唯一の「傍受を掌る通信隊本隊」として主に海外無線の傍受を行い、清瀬村の副受信所では「方位測定を掌る分遣隊」として方位測定が行われました。

「大和田通信隊」の本隊施設は、大和田町西堀から東は清瀬村下清戸、南は久留米村上野原に及び、そのアンテナ群は東西1km・南北2km以上の広範囲に設置されていました。受信機は主に大和田町西堀の中心施設にあり、海外無線の傍受に当たっていました。

久留米村を撮影した当時の米軍空中写真には受信施設や官舎の他、多くのアンテナが観察され、その範囲は現在の東久留米団地の全域に及びます。その南西端からは海軍用地を示す境界杭も発見されています。

旧久留米村の北端に海軍、南端に陸軍の海外無線傍受を専門とする中心的な施設が建設されたのは、この地域が電波障害が少ない環境であったからとされています。



当時のアンテナ（個人撮影）



左：大和田通信隊（旧大和田町）

現在は在日米軍大和田通信所（埼玉県新座市）となっています。

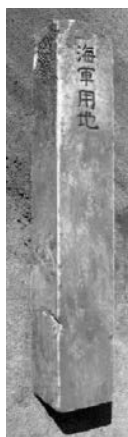
下：大和田通信隊・副受信所（旧清瀬村）

現在は一部が気象庁所管の気象衛星センター（東京都清瀬市）となっています。（米軍撮影・昭和24年・国土地理院）



久留米村の施設

現在は大部分が東久留米団地で、一部が公共用地。旧施設部分には1963～77年に東京航空交通管制部がおかれていました。（米軍撮影・昭和22年・国土地理院）



海軍用地境界杭

東久留米団地改修時に確認された旧海軍用地のコンクリート製境界杭です。東久留米市郷土資料室所蔵。

空襲の痕跡

昭和17年（1942）4月18日の米空母ホーネットから飛び立った16機のノースアメリカンB25による日本初空襲は、被害こそ小さかったものの、空襲の危険性を意識させ、日本も次第に防空体制を整えていきました。

日本本土への空襲が本格化するのは、昭和19年（1944）年11月以降です。それは、同年7月から8月にかけてサイパン・グアム・テニアンなどのマリアナ諸島を確保した米軍が、そこに長距離爆撃機B29の戦略爆撃基地を整備したためです。その最初の爆撃目標となったのが中島飛行機武蔵製作所でした。当時の東京の北多摩地域は、平坦で広大な用地を確保しやすいため、昭和10年代に航空機関連の軍需工場が次々と建設されました。その代表的なものが軍用機用エンジンの製造のために昭和13年に旧武蔵野町西窪に操業を開始した中島飛行機武蔵野製作所（陸軍用）です。昭和18年には隣接した多摩製作所（海軍用）と合併し、50万㎡、従業員5万人を擁する中島飛行機武蔵製作所となりました。さらに、武蔵野町をはじめ周辺の三鷹町・田無町などに関連会社の工場や施設の建設・移転が進み、武蔵製作所を中心とする大規模な軍需工場地帯を形成していきました。そして、昭和19年11月24日の武蔵製作所へのB29による爆撃を皮切りに、日本への本格的な空襲が始まりました。

久留米村は中島飛行機武蔵製作所から4kmで、付近にはその関連工場もあったため、たびたび空襲の脅威にさらされました。久留米村が空襲を受けたのは日本側記録としては7回となっています。そのうち被害記録があるのは昭和20年3月4日と4月2日の空襲です。特に4月2日の武蔵製作所への低空

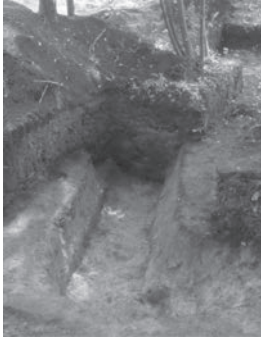
年	月	日	時間 空襲から警 報解除	主な空襲の形態	記録状況	投下弾数及種別			被害状況						備考		
						爆弾	焼夷弾	不発	死者	負傷者			被害家屋				
										重傷	軽傷	不明	全壊	半壊		全焼	
19	11	24	12:15~15:00	B29高高度精密爆撃	中島飛行機 武蔵製作所 初爆撃												浄牧院本堂前被弾等 久留米村の詳細不明
20	1	9	14:00~15:05	B29高高度精密爆撃	被害地域と して記載												久留米村の詳細不明
20	2	16	7:09~13:23	艦載機攻撃	罹災地域と して記載												グラマンF6F等 久留米村の詳細不明
20	3	4	8:45~10:04	B29高高度精密爆撃	被害あり	65	14			2			2	14	1		中島航空金属 田無製造所罹災
20	4	2	2:20~3:30	B29夜間精密爆撃	被害あり	322		24	6	1			2	3			2日17時時点被害調 べ(警視庁)、爆弾は 概ね落達後30分から 7時30分頃までに炸 裂(時限信管)
20	4	4	1:12~4:15	B29夜間爆撃	罹災地域と して記載												久留米村の詳細不明
20	7	8	12:20~12:45	戦闘機攻撃	罹災地域と して記載 (前沢)												東久留米駅前被弾 久留米村の詳細不明
					合計	387	14	24	6	1	2		4	17	1		

久留米村の空襲被害状況（『東京大空襲・戦災誌』『東京都戦災誌』等より筆者作成）

の夜間空襲は、目標が特定できず周辺町村に広範囲に爆弾が投下されたため、被害も大きなものとなりました。久留米村にも警視庁の記録では322発の爆弾（主に250kg時限爆弾）が落下しています。

空襲記録については米軍側資料との精査など、今後さらに調査が必要ですが、農村地帯である久留米村も空襲の脅威から無縁でなかったことは事実なのです。

機名	機番	機種
イブシ	007569	YE6A
ライオン		YE6B
		YE6C
		YE6D
		YE6E
		YE6F
		YE6G
		YE6H
		YE6I
		YE6J
		YE6K
		YE6L
		YE6M
		YE6N
		YE6O
		YE6P
		YE6Q
		YE6R
		YE6S
		YE6T
		YE6U
		YE6V
		YE6W
		YE6X
		YE6Y
		YE6Z



上：現存する防空壕・大円寺内(小山)
左：防空退避壕・神明山南遺跡(中央町)で発掘調査されました。1人か2人が隠れられるほどの大きさです。現存はしていません。

B29の動向に関する日本海軍の文書
マリアナ諸島各基地の無線傍受記録(昭和20年7月15日)。島名・部隊・機数・コールサインなどが記載されています。アジア歴史資料センター Ref.A03032044600、海護総情報第15号・「マリアナ」所在B-29ニ就キテ(国立公文書館)



左：空襲による爆弾の炸裂痕
白い円形の点が2列、一直線に400mほど続き、20以上の炸裂痕がみられます。現在の南沢から中央町。(米軍撮影空中写真・昭和22年・国土地理院)

中：戦後の不発弾処理
投下時に爆発しないで残っていた不発弾処理が昭和40～50年代にかけて8回行われました。写真は昭和47年の南沢における不発弾処理(炸裂痕写真右列中と思われます)。

主な参考文献：『日本無線史』第10巻・電波監理委員会1951、『海軍制度沿革』巻3・海軍大臣官房1939など。写真は表記のあるもの以外は東久留米市郷土資料室所蔵。(山崎 丈 東久留米市文化財保護審議会委員)

【編集】東久留米市郷土資料室(教育委員会生涯学習課文化財係)
〒203-0033
東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内
電話 042-472-0051 FAX042-472-0057